

# 島根県立 古代出雲歴史博物館 NEWS

2011.jan vol. 16



## CONTENTS

- 2・3 春の企画展「古代出雲の壮大なる交流」特集

---

- 4 皇太子殿下下行啓／古事記1300年に向けて

---

- 5 学芸員通信 6 古代文化センターだより・アテンダントのイベントだより

---

- 7 山陰歴史回廊＜松江歴史館＞ 8 企画展スケジュールほか

企画展  
古代出雲の  
**壮大なる  
交流**  
神々の国と往来した人と文物

2011.3.4 fri 5.16 mon

■ 開館時間 午前9時～午後5時 ■ 入館は開館30分前まで ■ 会期中の休館日 3月15日(火)・4月19日(火)

古代出雲歴史博物館

春の企画展

古代出雲の

# 壮大なる交流

古代出雲の壮大なる交流 - 神々の国を往来した人と文物 -



島根県出雲地方は、神々の国の首都として全国的に知られています。でも古代出雲の素顔と言うと、まだわからない事が多いのです。荒神谷遺跡、加茂倉倉遺跡に代表されるような大量の青銅器を保有した国。巨大な高層神殿が立っていたとされる神話の舞台。断片的な史実の影に浮かびあがる真実の古代出雲とは、いかなる場所なのか。

最近、言われている有力な説では、弥生時代の出雲が全盛期で、その後、ヤマト王権に<sup>ひっそく</sup>圧倒され逼塞を強いられて閉鎖的な社会となったと言われています。

今回の企画展では、このような説とは逆に、古代の出雲は他地域との積極的な交流を展開していたことを明らかにします。弥生時代が終わった後も出雲は輝いていたのです！

## 第1部

## 出雲的世界のバリエーション

皆さん、出雲という地名の存在を、無条件に島根県出雲地方と決めつけていませんか。実は出雲という地名や人名は、列島各地に分布しています。第1部では、このような点に注目して出雲文化圏の広がりやを明らかにすると共に、他の地域の人びとにとって、出雲はどのような場所として映っていたのか、こういった点を明らかにします。

### 第1章 列島各地の出雲臣

出雲大社の宮司は出雲国造と呼ばれ、古代の姓は出雲臣でした。実は、この出雲臣は出雲国だけではなく、山背国や大和国などにも分布していたのです。これは何を意味するのかといった問題を考えます。

□主な展示品

- 新撰姓氏録写本（個人蔵）
- 前波南遺跡出土木簡「出雲」（新潟県教育委員会蔵）
- 田中遺跡出土墨書土器「出雲」（福井県越前町教育委員会蔵）



国幣中社出雲神社明細帳  
(京都府立総合資料館蔵)

### 第2章 出雲臣のなりわい

出雲臣の子孫は、今日、神職として神事に奉仕されています。ところが、今から1300年前、花咲く奈良の都において、天武天皇の孫、左大臣長屋王に仕える出雲臣もいたのです。さらに古い時代、ヤマト王権の直轄地である屯田を管理する出雲臣もいました。

□主な展示品

- 相国寺境内遺跡〈山背国愛宕郡出雲郷計帳故地〉出土遺物（京都市考古資料館蔵）



相撲生人形 野見宿禰と当麻蹴速  
(熊本市現代美術館蔵 明治時代)

### 第3章 列島各地に残る出雲の神々の面影

スサノヲやオオクニヌシなど出雲系の神々は、島根県を含めた山陰地方だけではなく、列島各地に分布しています。その意味するところは何か。出雲系の神々を信仰した人びとはどのような存在であったのかといった点を考えます。

□主な展示品

- 袴狭遺跡出土箱形木製品〈サメが描かれたもの〉(兵庫県立考古博物館蔵)
- 出雲神社勝示図(亀岡市指定文化財 出雲大神宮蔵)
- 国幣中社出雲神社明細帳(重要文化財 京都府立総合資料館蔵)

### 第4章 出雲のイメージ

出雲と言えば、死者の国とか黄泉国とかというイメージがつきまといます。でも、古代の人びとは、決して出雲をマイナスのイメージでとらえていたわけではありませんでした。大和の人びとにとって、出雲は王権を支える重要な場所だったので。

□主な展示品

- 安本亀八《相撲生人形 野見宿禰と当麻蹴速》(熊本市現代美術館蔵)
- 黄金塚2号墳出土力士線刻鱗付円筒埴輪(花園大学蔵)
- 野口1号墳出土装飾付須恵器(重要文化財 倉吉博物館蔵)
- 巢山古墳出土水鳥形埴輪(奈良県広陵町教育委員会蔵)



黄金塚2号墳出土  
力士線刻鱗付円筒埴輪  
(花園大学蔵)

# 第2部 出雲への道、出雲からの道

大和から出雲へ向かう際には3つのルートがありました。一つは、丹波国・但馬国・因幡国・伯耆国と抜けていく山陰道、もう一つは、「北ッ海」と呼ばれた日本海の沿岸を浦づたいに進む海の道、そして、中国山地を山越えする出雲街道です。このコーナーでは、それぞれのルートに沿って往来した人と文物を御紹介します。

## 第1章 ノミノスクネが往来した道

ノミノスクネが出雲からやって来て大和の勇士と対決する話、殉死にかえて埴輪制作を提案した話などは、これまで信ずるに足らない伝承と片付けられてきました。しかし、伝承のウラには、秘められた史実があるはず。それを知る手がかりは、播磨国・山背国・河内国・大和国などの遺跡から出土する山陰系土器なのです。

### □主な展示品

- 西求女塚古墳出土品（重要文化財 神戸市教育委員会蔵）
- 菅原東遺跡出土品（奈良市教育委員会蔵）



西求女塚古墳出土鏡  
(神戸市教育委員会蔵 重要文化財)

## 第2章 北ッ海の交流

大和国から出雲国へ船で向かう場合、その出発地となる港は丹波国の丹後半島です。丹波国は、海を介して出雲国だけではなく、北陸地方の国々、九州地方の国々、そして海の向こうの朝鮮半島の諸国ともつながっていました。海を舞台とした交流の担い手は、丹波国の海人たちです。彼らが潮の流れに乗って運んだものは何だったのでしょうか。

### □主な展示品

- 大風呂南1号墓出土ガラス釧（重要文化財 与謝野町教育委員会蔵）
- 海部氏系図（国宝 海部光彦氏蔵）
- 長原高廻り2号墳出土船形埴輪（重要文化財 文化庁蔵）
- 宝塚1号墳出土船形埴輪（重要文化財 松阪市教育委員会蔵）
- 伝奈良県天理市柳本町渋谷出土石枕（重要文化財 関西大学博物館蔵）



宝塚1号墳出土船形埴輪  
(松阪市教育委員会蔵)

## 第3章 律令制下におけるルートと情報伝達

律令国家の時代に畿内と地方諸国は官道で結ばれていました。山陰道もその一つです。中国山地を山越えする街道も利用されていましたが、これらのルートは突然出来上がったわけではありません。前提として中国山地に接する諸国間で地域間の交流があったのです。その実態を、寺院の屋根を飾った瓦の文様や鴟尾のスタイルから明らかにします。

### □主な展示品

- 寺町廃寺出土軒丸瓦（三次市教育委員会蔵）
- 長門深川廃寺出土軒丸瓦・軒平瓦（山口県教育委員会蔵）
- 大御堂廃寺出土鴟尾（倉吉博物館蔵）



因幡堂葉師縁起絵巻レプリカ(鳥取県立博物館蔵)

## 第4章 日本海・山陰道・出雲街道を往来した人びと

古代に切り開かれたルートは、中世・近世においても多少の位置の移動はありましたが利用され続け、今に至っています。それぞれの時代にどのような人びとや文物が往来したのか、肖像画や屏風絵、紀行文などから明らかにします。

### □主な展示品

- 上方街道絵図（米子市教育委員会蔵）
- 安永大成道中記（島根県立図書館蔵）
- 田蓑の日記（個人蔵）
- 鰻運搬資料一式〈籠・竹細工帽子・天秤棒〉（安来市教育委員会蔵）



伝奈良県天理市柳本町渋谷出土石枕  
(関西大学博物館蔵 重要文化財)

## 関連企画

### ■連続講座

「古代出雲は白鳥の国だった！ーホームチワケ伝説の謎に迫るー」

3月 5日(土) 和田 萃氏 (京都教育大学名誉教授)

「ダイコクさんのもう一つのふるさと、播磨」

3月 19日(土) 坂江 渉氏 (神戸大学特准教授)

「金ぴかのベルトを運んだ海人たち」

4月 16日(土) 中司照世氏 (元福井県埋蔵文化財調査センター所長)

「神々の国、出雲へ入った仏サマの文化」

4月 23日(土) 妹尾周三氏 (東広島市教育委員会文化課課長補佐)

「古代出雲は輝いていた！ー驚異のイズモワールドー」

5月 7日(土) 森田喜久男氏 (当館専門学芸員)

### ■海道かけめぐり・街道ウォーク

●イナバノシロウサギかけめぐり

日時:3月13日(日)8:30~17:00(予定)

●桜咲く歴史回廊・出雲街道ウォーク

日時:4月10日(日)8:30~17:00(予定)

### ■ワークショップ

●木簡をつくろう

日時:3月27日(日)13:30~16:00

### ※関連企画のお問合せ

古代出雲歴史博物館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL0853-53-8600 FAX0853-53-5350



## 皇太子殿下啓

11月9日夕刻、古代出雲歴史博物館へ皇太子殿下をお迎えました。中央ロビーの出雲大社境内遺跡出土の宇豆柱や、荒神谷・加茂岩倉遺跡の出土品などを展示するテーマ別展示室、企画展「神々の姿 古代から水木しげるまで」が開催中の特別展示室などを御視察されました。上田正昭名誉館長の説明に耳を傾けられ、宇豆柱の大きさや銅剣や銅鐸の出土数の多さに古代出雲のロマンを感じていただきました。

神々の国しまね

古事記編纂1300年

## ここが舞台、ここから発信!

平成24年は、古事記が編纂されて1300年という記念の年に当たります。古事記や日本書紀で語られる神話のうちの1/3は出雲神話と言われるほど、島根県にとってはゆかりの深い歴史書です。また、高天原への国譲り神話と関連づけて語られる出雲大社は、平成25年に「平成の大遷宮」を迎えます。

このような歴史的節目をとらえて、島根県では、平成22年度から25年度までの4年間、県・市町村・民間団体が一体となって「神話のふるさと『島根』推進事業」に取り組むこととしています。この期間中、歴史文化に彩られた島根の魅力を、全国にPRし、多くの観光客に訪れていただけるような広報宣伝や企画事業を、県内外で展開するとともに、県民のみなさんが、郷土の歴史文化への認識を深め、ふるさとへの誇りと自信につながることを目指しています。この事業には、神話や古事記にゆかりのある奈良県や宮崎県などと連携し、全国規模でおこなうシンポジウムなども含まれています。

開館4年目を迎える当館では、これまで古代出雲の歴史文化を中心に紹介してきましたが、この4年間の事業展開では、中核的役割を担う重要な存在として期待されており、古事記や出雲大社にちなんだ企画を充実させることとしています。

現在、古事記1300年にちなんで当館で計画中の企画展等(以下いずれも仮称)として、「古代出雲の壮大なる交流」(H.23年3月～)、「音曲の神様～美保神社奉納鳴物～」(H.23年5月～)、「出雲の青銅器」(H.24年3月～)、「平成の大遷宮記念 出雲大社展」(H.25年3月～)、「石見神楽～舞を伝える～」(H.25年7月～)を予定しています。



館長 野村純一

また、H.24年の夏から秋にかけては、県外にも情報発信するため、京都国立博物館と東京国立博物館を会場に、巡回展「古代出雲と出雲大社」(仮称)も計画しています。

さらには、H.24年の夏から秋にかけては、当館周辺を主会場に、シンボリックなイベントとして、エンターテインメント色のある「神在(かみあり)の祭典」(仮称)も計画されています。

これから数年の間、当館周辺は、古事記1300年で賑わうことと思います。来館者の皆様方もご期待ください。

# リアル展示への工夫

専門学芸員 平石 充



特集展「出雲平野の弥生時代」は、文字どおり出雲平野の代表的な弥生時代遺跡の出土品を一堂に集めた展示です。今回は特に臨場感ある展示を目指して、古志本郷遺跡の大溝とそこから実際に土器が出土したときの状況を、展示室内で長さ13mほど展示してみました。古志本郷遺跡は県内の遺跡でも最も広く発掘された遺跡の一つで、大溝からは多数の弥生～古墳時代の土器が出土したことも知られています。私もこの遺跡の発掘調査を担当したことがあり、「出雲平野の弥生時代」というお題からまず頭にイメージが広がるのがこの古志本郷遺跡の大溝の多量の土器なのです。

今回は、特別展示室を区切って順路をつけずに、ほぼ一部屋の形にしています。また、壁展示ケースを使用せず、上からのぞける展示ケースのみを配置し、ぎりぎり資料が入る小さめのものを使用することで展示物を間近にみるができるようにしてみました。パネルもすべてケースの外に置いて、これも接近可能です。というわけで、今までの特集展からみると一風変わった展示を試みてみましたが、皆さんいかがでしょうか？是非一度ご覧いただき、ご感想をお寄せいただければ幸いです。



## 古事記1300年

### おんぎょく かみさま み ほ じんじゃほうのうなりもの 特集展『音曲の神様～美保神社奉納鳴物～』開催決定！

島根半島の東端、松江市美保関町美保関にある美保神社は、事代主神と三穂津姫命を主祭神とする神社で、古くは『出雲国風土記』に「美保社」と出てきます。

事代主神は、『古事記』『日本書紀』に登場する神さまで、大国主神の御子神として、大国主神とともに国譲りを受諾した神さまです。このとき、乗っていた船を青柴垣あおふしがきに変えて、そこに隠れたとされています。また、高天原の使者が乗ってきた船は、熊野諸手船くまのもろたぶね（『日本書紀』）と呼ばれています。こうした神話にちなむ神事が、かの有名な「青柴垣神事あおふしがきしんじ（4月7日）」と「諸手船神事もろたぶねしんじ（12月3日）」であることは、よくご存知のことでしょう。

中世から近世にかけて海上交通が発達し、美保関は海上交通の要衝として大きく栄えました。人と物の往来を通じて、美保神社への信仰も高まり、福神として知られるエビス神と習合し、「明神さま」「エビスさま」と親しまれてきました。そして、美保の神さまは、鳴物が好きであるとの習俗が広く伝わり、これまで、たくさんの楽器が奉納されてきました。



戦国時代から明治時代にかけての太鼓や小鼓などの打楽器、横笛や縦笛などの管楽器、三味線や琴などの弦楽器をはじめ、アコーディオンやオルゴール、ハーモニカ、そして楽器のおもちゃまで多岐にわたり、その点数は846点にもなります（すべて国の重要有形民俗文化財指定）。

特集展では、この奉納鳴物を一堂に紹介します。日本で最も古いオルゴールをはじめ、時代を超えて伝えられてきた数々の楽器に出会えます。もしかしたら、音も聞けるかも！

**開催予定 5月29日(日)～7月3日(日)**

3年目なので銅鐸を作っちゃいました

～古代出雲における青銅器文化の特質に関する研究から～

古代文化センター主任研究員 増田 浩太

3カ年計画で実施している弥生青銅器の調査研究では、青銅器の鑄造実験を続けています。昨年来、銅劍の鑄造実験を繰り返し、自信？を深めた我々が、「次は銅鐸だな」と復元鑄造実験に取りかかったのは、まだ残暑厳しい9月でありました。中側を中空にしなければならない銅鐸は、銅劍の鑄造とは違った難しさがあります。また、銅鐸の形状は微妙なカーブの集合体ですが、表・裏・中型の3つを寸法通りに正確に成形しなければなりません。作業の中心たる劉研究員が連日奮闘した結果、大小2組の銅鐸鑄型が完成したのは、実に3ヶ月後のことでした。



焼いた鑄型を組む

季節は既に冬。町の鑄物屋さんと違って、常設工房を持たない我々は、屋外テントで鑄造実験をするしかありません。天気予報を睨みつつ、鑄造実施日を思案します。狙ったかのように襲ってくる寒波。吹雪の中、ふるえながら溶解炉を組んで、実験日に備えます。

迎えた12月17日朝7時、型焼きが始まります。僅かでも水分が残ると、失敗の原因になるので気が抜けません。午後2時、鑄型が焼き上がりました。このキンキンに焼けた鑄型を組合せ、地面に埋めるのがまた大仕事です。なんとかかわら紐でくくり、地面に据えた頃には全員が汗だくです。



鑄込みのようす

本来ならば、この後の鑄込み（溶かした青銅を鑄型に流し込む）が最大のクライマックスですが、私自身は意外に落ち着いていました。劉研究員の鑄型は完璧な出来ですし、鑄込み自体も銅劍鑄造と同じですから心配はありません。実際、小さなトラブルはあったものの、銅鐸はできあがったので、目的の一つは達成できたと言えます。

しかし我々は綺麗な銅鐸を作るために実験をしたわけではありません。銅鐸がほしければ、経験ある鑄物氏さんに頼めば良いだけのことです。鑄型を作り、組み、埋め、鑄込む…そういった過程で何が重要なのか、どのようなトラブルが起こるのか、弥生人はどんな工夫をしたのか、さまざまな観点から鑄造を検証することに意味があるのです。本物の銅鐸には、鑄造時にできた気泡や欠け、鑄型のヒビなどが残されています。我々の銅鐸にも同じような欠陥がいくつも見られます。弥生人から見れば、むしろ欠陥だらけのできそこないかもしれません。では鑄造実験は失敗だった？そんなことはありません。「表裏で鑄型が相当ズレてるなあ」、「この部分はなんで文様が綺麗に出ないのかな」、「この傷は実物と同じだね」…ちょっと観察しただけでも興味深い点がいくつも見つかります。できそこないだからこそ、さまざまな発見があるのです。銅鐸の鑄造が終着点ではありません。我々の研究はまだまだこれからです。



銅鐸を手にとりこり

[アテンダントのイベントだより]

● 11月3日に『れきはく秋まつり』を開催しました。●



●風土記の庭散策／自然観察指導員の佐藤仁志先生をお招きして、初めての企画『風土記の庭の探索会』を開催しました。ただ単に先生の説明を聞きながら庭園をめぐるのではなく、実際に草木に触れたり、木の葉を噛んでみたりする体験ができる企画ということで、みなさんが興味深く参加していらっしゃいました。また、昔の人々がどのように草木を使っていたのか、春秋の七草の共通点や山陰地方はキノコ・山菜文化が遅れていることなど、図鑑に書いてないような説明も聞きました。風土記の庭は歴博の特色のひとつであり、そこに着目した今回の新しい企画は、また違う角度から古代出雲に関心をもってもらうきっかけになればと思います。

●秋の古代食を味わう／島根庖友会会長安田政男先生による毎年恒例イベントは、今回も大盛況をむかえました。11時から整理券を配り始めましたが、なんと30分後にはもう完売でした。蛤ご飯や鯛と大根の和え物、そして汁物の古代食は、古代の味と同じようにということで、素材そのものの味を活かしながらのふるまいでした。「古代の人は、こんなごちそうを食していたんですね。驚きました。」という感想がとて多かったです。また、次回もどんな古代食になるのか……。お客様とともに楽しみにしている私です。



# 「さんいんさんぽ」

## 「お城の見える博物館」～松江歴史館/島根県松江市～

江戸時代の初め、堀尾氏により松江に城下町が建設されてから400年。その節目の年に近世の松江に関する歴史資料を調査研究、保存、展示し、後世に伝える博物館として、「松江歴史館」がいよいよ平成23年3月19日(土)に開館します。

### 【建物施設】

敷地面積は約5,500㎡、延床面積は約4,200㎡。歴史的景観に配慮し、武家屋敷をイメージした和風の外観です。「お城の見える博物館」のキャッチフレーズ通り、館内から松江城天守を望むことができます。館内は畳敷きとなっており、広いホールを進むとその先には展示室のほか、喫茶やミュージアムショップ、30畳の大広間があります。大広間から見えるのは、黒松を中心に、飛び石、短冊石を配した枯山水の日本庭園です。また、400年前の姿に復元した伝利休茶室もみどころのひとつです。敷地内には松江藩家老朝日家の長屋も復元し、見学していただくだけでなく、講座やイベントも開催します。



外観

### 【展示室】

展示室は基本展示室、企画展示室に分かれています。基本展示室では江戸時代を中心とした松江の歴史を知ることのできる場所として、様々な歴史資料とともに、映像や模型を使って分かりやすく解説をしています。堀尾氏が入部し、松江城と城下町を形成するまでを紹介する映像に始まり、松江城下の模型を眺め、城下町の400年のときを感じることができます。そのほか、松江の町人が書き残した日記をもとにした庶民の暮らしぶり、小泉八雲が文学作品に記した江戸時代の風情を残す松江の様子など、多彩な映像展示が繰り広げられます。



日本庭園

壁面のケースでは実物資料、レプリカ、グラフィックを用いて堀尾、京極、松平の各時期における藩主や藩士、藩政の歴史をご覧ください。「松江藩を支えた産業」、「水とともに生きる」といった各テーマを設け、産業や水運、城下町の庶民の暮らしや、松平家七代藩主治郷(不味)が育てた茶の湯を通した文化もご紹介します。



基本展示室の様子

企画展示室では、年間を通して様々な題材をもとに展示・企画を行っています。開館特別展では、「堀尾氏三代の国づくり」と題して堀尾氏の城下町形成、初期藩政、そして堀尾家の歴史を紐解いていきます。注目すべきは、この度松江で380年ぶりに一堂に会する、堀尾氏三代の木像です。この機会にぜひご覧ください。

### 松江歴史館 平成23年3月19日(土)開館

〒690-0887 島根県松江市殿町279番地

TEL 0852-32-1607 FAX 0852-32-1611

開館時間●4月～9月 8:30～18:30、10月～3月 8:30～17:00

入館料●無料

展示観覧料●基本展示

一般500円(400円)、小・中学生250円(200円)

※( )は20名以上の団体です。

※企画展示は別途料金がかかります。

休館日●毎月第3木曜日(祝日の場合は翌日)



松江大橋界隈の100分の1模型

2011. Special Exhibitions ~企画展スケジュール~

企画展

古代出雲の壮大なる交流

神々の国を往来した人と文物  
2011年3月4日(金)~5月16日(月)

{特集展}

音曲の神様

美保神社奉納鳴物

2011年5月29日(日)~7月3日(日)

特別展

観音巡礼

中国路の古寺と仏像

2011年7月22日[金]~9月25日[日]

企画展

たたら製鉄と  
近代の幕開け

2011年10月7日[金]~12月18日[日]

中央ロビーでパネル展示を開催中!

「アテンダントがおすすめる常設展示の見どころベスト10」

展示室前の中央ロビーの一角で、今年度からパネル展示を始めたことに気付かれたでしょうか?

当初はロビーに差し込む夕日対策として始めたパネル展示ですが、何かのイベントや記念行事にあわせて不定期に展示替えを行っております。昨年の10月からは「アテンダントがおすすめる常設展示室の見どころベスト10」を開催しています。

もともとは見学時間があまりないお客様のために、当館のアテンダントが知恵を絞って考えた企画です。常設展示室の見どころやオススメの展示品について、ここだけは見てほしいとの想いを込めアテンダントみんなで投票してベスト10を選びました。

また、この見どころを紹介する紙芝居もできました。さて何がベスト10に選ばれたのかについては、見てのお楽しみということで・・・!



みどころ紙芝居もできました!

年間パスポートのおすすめ — ご来館ポイントサービス始めます! —

平成23年3月より、年間パスポートを更新されるお客様・新規加入されるお客様につきまして来館ポイントサービスをスタートします。

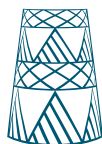
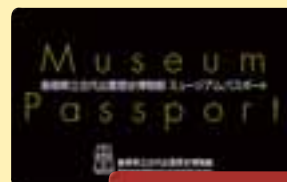
特典

5回来館(1日1回)いただくたびにカフェ「阿礼」の500円券を進呈します。

出雲大社の神苑を眺めながら、ゆっくりとした時間をお過ごしください。

また、ダブルポイント企画(1日1回2ポイント)もDMにてご案内いたします。

来館ポイント記録方法: 展示をご覧いただく際と同様に、展示室入口のアテンダントにパスポートをご提示ください。アテンダントがパスポート裏面のバーコードを読み取りご来館を記録します。(同日何度ご提示いただいても1ポイントとなります)  
有効期間: パスポート有効期間と同様1年間とします。



島根県立古代出雲歴史博物館  
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
URL: http://www.izm.ed.jp E-mail: contact@izm.ed.jp  
開館時間 9:00~18:00(11月~2月は、9:00~17:00)

発行/平成23年1月



マスコットキャラクター  
雲太くん



マスコットキャラクター  
出雲ちゃん